

船舶事故調査報告書

令和2年11月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年5月24日 03時00分ごろ
発生場所	境港第3区 境港去ルガ鼻灯台から真方位153° 2.1海里付近 (概位 北緯35° 30.0′ 東経133° 12.9′)
事故の概要	プレジャーボート ^{しょうえい} 昭栄丸は、南南東進中、砂浜に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年6月24日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 昭栄丸、5トン未満（長さ6.27m）
船舶番号、船舶所有者等	272-20718鳥取、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に破口を伴う擦過傷、推進器翼が脱落
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、知人2人を乗せ、船長が操舵スタンドの前に立ち、境港第3区を約15ノットの対地速力で手動操舵により南南東進中、もうすぐ入港できると思い、安堵して気が緩み、眠気を催して間もなく居眠りに陥り、中海干拓地中央付近の砂浜に乗り揚げた。 船長は、操船中、居眠りに陥ったのは初めてであり、ふだん眠気を感じた際、風に当たったり、体を動かしたりしていたものの、朝早くから操船していたので、疲れを感じていた。
分析	本船は、南南東進中、船長が、居眠りに陥り、中海干拓地中央付近の砂浜に向けて航行を続けたことから、同砂浜に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、早朝から操船して疲れを感じていたこと及びもうすぐ入港できると思い、安堵して気が緩んで覚醒水準が低下し、居眠りに陥ったものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、南南東進中、船長が、居眠りに陥り、中海干拓地中央付近の砂浜に向けて航行を続けたため、同砂浜に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・船長は、眠気を感じた際には、風に当たったり、体を動かすなどして居眠り防止措置を採ること。